

杉並農人

Suginami Nōjin

第20号





杉並の農家が輝いている。

新鮮で安心して食べられる減農薬・無農薬の野菜。
日々の生活をいろどる花々。
都市空間に広がる農の風景は人々の心を癒します。

杉並には、地元を豊かにし、街に潤いを届けている農業者がいます。
即売会や畑の直売所で、採れたての農産物を販売し、
子どもたちには、学校給食や社会科見学を通して
食や農の大切さを伝えています。
区民に寄り添い、がんばる杉並の農業者を
“杉並農人”と呼び、紹介します。

杉並区の農業 DATA

- **農家戸数：125戸**
※令和4年4月1日現在
- **農地面積：37.79ヘクタール (377,900㎡)**
※令和4年4月1日現在
※農地のある区部11区で5番目の農地面積
※野菜・果樹の他、植木・切り花等の栽培も多い

- **野菜の生産量ベスト3**
1位 トマト …………… 86トン
2位 ダイコン…………… 80トン
3位 ナス …………… 75トン
 - **果物の生産量ベスト3**
1位 カキ …………… 10トン
2位 キウイフルーツ 5トン
2位 クリ…………… 5トン
- 東京都農業会議「区市町村別農業データブック(令和3年度)」より

体験農園を通じて、農業とは何かを伝えたい

農作業と、採れたて野菜の美味しさを体験できる

今川図書館の北と東に、農園主の星野智彦さんから農作業を学べる今川体験農園がある(※)。「開設7年目でようやく落ち着いてきました」との言葉どおり、約80の区画には生き生きとした葉が茂り、利用者が丹精込めて手入れをしている様子うかがえる。

栽培する作物は星野さんが年間20種類ほど選定しており、春はジャガイモ・トマト・キュウリ、秋はキャベツ・ブロッコリー・大根など、定番野菜が利用者に人気とのこと。「毎年トウモロコシと枝豆は外せません。採れたては新鮮で美味しいと皆さんおっしゃいます。それが体験農園のいいところなのかな」と星野さんは笑顔で語る。11月の畑では、大きなヤツガシラの株がひときわ目を引いた。収穫時に掘ると「こんなふうになっているのか」と驚きの声上がるそうで、普段目にしない作物の成長過程を学べるのも体験農園の醍醐味だ。

毎週金・土・日曜日には畑を巡回し、利用者の質問に答

えたり、必要な知識やノウハウを伝えたりする時間を設けている。一人一人の声にじっくりと耳を傾け、わかりやすい言葉で説明する姿が印象的だ。種まきや苗の植え付け方、追肥や農薬の扱いなどについて要点をホワイトボードにまとめ、利用者が自由に見られる工夫もしている。

※農業体験農園の制度については、P5の説明を参照

自ら考えることが本当の体験

星野家は江戸時代に越後(新潟)から、この地に移り、農業を営んできたという。

大学で化学を専攻していた星野さんは、鉱業系の会社に就職し、商品開発や化学分析などにやり甲斐を感じていた。だが30歳の時、父親の義和さんが腰を痛めて畑作業が難しくなったことを機に就農。最初は義和さんのジャガイモ掘りなど重労働をサポートしていたが、5年後にはメインで畑を切り盛りするようになった。「私の代からは、なるべく農業に頼らない自然に近い作り方に変



1. 利用者からの質問に対しては、畑で実際に野菜の状態を見ながら丁寧に回答。
2. 野菜作りに必要な種・苗・肥料・農具は星野さんが用意。



星野 智彦

昭和42年生まれ。大学で化学を専攻した後、鉱業系の会社勤務を経て、平成9年に父・義和さんを手伝うために就農。40代で農協の役員を務める。平成28年に今川体験農園をオープン。令和4年度は約40.2アール(4,021㎡)の農地のうち、約24アール・約80区画を体験農園として運営。杉並区認定農業者。

今川体験農園:
杉並区今川4-12・4-18

えました。米ぬかを畑の中に混ぜたりして土作りに力を入れたところ、野菜の出来が格段に良くなりましたよ」。平成27年に杉並区から体験農園の話があり、開設することを決めてからは、1年かけて準備を進めた。他の体験農園で講習を受けたり、農業の歴史などを調べたりしながら、「来てくれた人が自分で考えられる体験農園を目指そう」と思い立つ。

最初は20区画からスタートし、毎年少しずつ区画を増やしていった。「初めの頃は無農薬に挑戦して、うまくいかなかった方もいましたが、それも体験だと思っんです。今は有機栽培用の農薬を使っている方が多く、皆さんが考えた結果なのでしょう」。令和4年は、開園時から使用している区画だけネギが不作で、その原因は何かという話になったという。「土も人間と同じで、体力ならぬ地力がどんどん落ちていきます。疲弊した土を再生しないと良い野菜ができないことを、利用者が自ら体験し学ぶ機会になりました」。

野菜作りの先にある農業理解を目指して

利用者は近隣の方や30~40代のファミリーが多く、1年ごとの更新だが開園以来ずっと続けている方もいる。畑への出入りは24時間可能なので、生活スタイルに合わせて通えるのがうれしい点だ。ホワイトボードのメモを参考に自主的に作業する人も多く、理想に近づいていると星野さんは喜ぶ。「園主に言われた通りにやるだけでも野菜作りの体験はできますが、自分で試行錯誤しながら体得していくことが『農業体験』なのではないか、と私は思っています」。

星野さんは、今後はさらに一歩進んで「農業とは何か」ということも考えてもらいたいと話す。「日本の農業は高齢化が進み、農地も減少しています。食べることは命をつなぐこと。農業はそれを支える重要な役割を担っているということを、あらためて多くの方に考え、理解してもらえるとありがたいですね」。日本の食料問題までを見据えた星野さんの取り組みは続く。

農業体験農園

園主である農家さんのアドバイスを受けながら、農作業を体験できる農園です。利用料を支払って区画を借り受け耕作を行います。種・苗・肥料・農具等は基本的に園主が用意。週1回程度、農作業や栽培に関する講義や指導等が受けられ、未経験の方でも安心して野菜作りを楽しむことができます。現在、杉並区内には2カ所の体験農園があり、年に1回程度、利用者の募集を行っています。募集のお知らせは「広報すぎなみ」及び区公式ホームページに掲載します。

今川体験農園 (今川4-12-4-18)
井草体験農園 (井草5-16)

- 年間利用料：約5万円
- 一区画面積：約20㎡
- 対象者：20歳以上で定期的に農園に来られる方

※農園によって、利用料・面積等の条件は異なります。(令和5年3月現在)



TOPIC!

都市農地について考えてみる。

「生産緑地」ってなに？

昭和の高度経済成長期からバブル期の地価高騰を経て、農地の宅地化だけでなく無秩序な乱開発も懸念される中、特に三大都市圏の農地減少に危機感を抱いた国は、保全すべき農地を「生産緑地」として指定し、容易に住宅等に転用できないよう法の整備を行いました。(平成4年「改正生産緑地法」施行)
「生産緑地」に指定された農地は、税制上の優遇を受けられる一方、「売る・貸す・建てる・借りる(担保とする)は原則禁止」の行為制限を受けます。指定期間は30年ですが、法施行当初に指定された農地が期間終了を迎える令和4年を前に、さらに「特定生産緑地制度」が設けられ、指定期間の10年延長が可能になりました。いまや都市部の農地保全は、国を挙げて取り組むべき重要課題となっています。



日本の食料自給率38パーセント!

新型コロナやロシアによるウクライナ侵攻によって世界的に交易状況が悪化し、注目されたのが食料自給率。「38%」はカロリーベースの数値で、国民1人1日あたりに供給されるカロリーのうち、国産品が占める割合で算出しています。
昭和40年には73%だったものが、食生活の変化も相まって徐々に低下し、いまや先進国中でも最低水準に落ち込んでしまいました。しかも、農業では種や肥料、畜産業では飼料の大半を輸入に頼っているため、実際の自給率はさらに低いと言えます。都道府県別にみると、東京都の食料自給率0%(令和元年度)という衝撃的なデータも発表されています。

フード・マイレージ～食料の長距離移動問題～

食料を輸送する量と距離を掛け合わせた指標が「フード・マイレージ」。国土が小さい島国で、食料の多くを輸入に頼っている日本のフード・マイレージは、世界でも突出しています。
フード・マイレージとCO2排出量の多さは比例し、輸入に伴う日本のCO2排出量は1,690万tで、国内輸送(900万t)の約1.87倍にあたります(令和2年度)。地球環境への負荷を減らすためCO2の削減が叫ばれる今、食料供給地と消費地の距離を縮め、フード・マイレージを減らすことには大きな意味があります。新鮮な作物を供給するだけでなく、地球環境にも優しい地産地消。都市部の農地保全は、その地産地消の推進に欠かせない条件です。

参考: 東京都産業労働局「東京農業のすがた」/農林水産省ホームページ「知ってる?日本の食料事情」/中田哲也(北陸農政局)「フード・マイレージ」について

MARKET SCHEDULE 2023

杉並産の野菜を食べてみたいと思ったら!

杉並産野菜は農家の直売所のほか即売会などでご購入いただけます。ぜひ足を運んでみてください。



開催日	イベント名	場所	販売農産物	問合せ先
毎週火曜日	JA東京中央 杉並中野支店即売会	JA東京中央 杉並中野支店 (桃井2-3-4)	野菜・草花	JA東京中央 杉並中野支店 TEL. 03-3399-8983
毎週木曜日	JA東京中央 城西マルシェ	JA東京中央 城西支店 (成田東5-18-7)	野菜	JA東京中央 城西支店 TEL. 03-3392-7271
毎週木曜日	JA東京中央 高井戸マルシェ	JA東京中央 高井戸支店 (高井戸東3-22-11)	野菜	JA東京中央 高井戸支店 TEL. 03-3331-5181
毎月第2土曜日 (変則開催月あり)	すぎのこマルシェ	農福連携農園すぎのこ農園 (井草3-19-23)	野菜・草花 加工品・雑貨	農福連携農園すぎのこ農園 TEL.03-5303-9835
毎月第3土曜日	座の市	座・高円寺 (高円寺北2-1-2)	野菜	座・高円寺 TEL. 03-3223-7500
3月29日(水)	春の即売会	杉並区役所本庁舎 青梅街道側広場・中杉通り側入り口前 (阿佐谷南1-15-1)	野菜・草花 植木	産業振興センター都市農業係 TEL. 03-5347-9136
5月3日(祝・水) ~5日(祝・金)	大宮八幡わかば祭り	大宮八幡宮 (大宮2-3-1)	草花・植木	大宮八幡宮 TEL. 03-3311-0105
5月20日(土)	花と緑の井草まつり	井草森公園 (井草4-12-1)	野菜・草花	東京商工会議所杉並支部 TEL. 03-3220-1211
6月11日(日)	すぎなみ産業マルシェ	産業商工会館 (阿佐谷南3-2-19)	野菜	産業商工会館 TEL. 03-3393-1501
6月中旬(土・日) 予定	グリーンマーケット	阿佐ヶ谷神明宮 (阿佐谷北1-25-5)	野菜・植木	阿佐ヶ谷神明宮 TEL. 03-3330-4824
6月下旬~7月 予定	JA東京中央 井荻マルシェ	JA東京中央 井荻支店 (今川1-17-15)	野菜・草花	JA東京中央 井荻支店 TEL. 03-3395-3361
6月下旬予定	JA東京中央 杉並中野生産部会即売会		野菜・草花	JA東京中央 杉並事業所 TEL. 03-5349-8792
7月上旬予定	JA東京中央 城西生産部会即売会	杉並区役所本庁舎 中杉通り側入り口前 (阿佐谷南1-15-1)	野菜・草花	JA東京中央 杉並事業所 TEL. 03-5349-8792
7月中旬予定	杉並区グリーンクラブ即売会		野菜・草花	産業振興センター都市農業係 TEL. 03-5347-9136
7月下旬(日)予定	福祉会館夏まつり	杉並障害者福祉会館 (高井戸東4-10-5)	野菜・草花	杉並障害者福祉会館 TEL. 03-3332-6121

※上記以外にも即売会の開催予定があります。詳細については「広報すぎなみ」紙面や杉並区公式ホームページにて情報をご確認ください。
※新型コロナウイルスの感染拡大状況や天候等の事情により中止や変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

常設直売所 **ファーマーズマーケット荻窪**
新鮮な野菜・草花のほかに加工食品も扱っています。

● 場所 阿佐谷南3-13-2 TEL.03-5349-8791
● 営業時間 10:00~16:30 ● 定休日 日曜・月曜・祝日・年末年始



杉並農人 第20号

2023年3月

企画：杉並区

制作：NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

協力：杉並区農業者（JA東京中央城西生産部会、JA東京中央城西地区青壮年部、JA東京中央杉並中野生産部会、JA東京中央杉並中野地区青壮年部、
井草園芸研究会、高井戸花卉研究会、杉並区グリーンクラブ）、JA東京中央、杉並区民の皆さん

◎お問い合わせ

杉並区産業振興センター都市農業係 〒167-0043 杉並区上荻一丁目 2-1 Daiwa 荻窪タワー2F TEL：03-5347-9136

参考：杉並区発行「ふれあい農業すぎなみ 農産物直販マップ 2022」

※杉並区 HP でも公開しています。「直販マップ」で検索してみてください。